

Twinkle No.1 2017.02.01

川崎こどもクリニック附属病児保育室リトルスター <http://www.kawasaki-kc.jp/littlestar.html>

〒597-0102 貝塚市木積 607-10 TEL/FAX 072-446-0415 little-star@kawasaki-kc.jp

創刊に際し

病児保育室リトルスターは貝塚市の委託を受け、病児のお預かりをしています。ただ、病児預かり数は季節変動が大きいものです。国は病児保育を運営する施設に対し、保育数の少ない時期を利用し、地域の保育児童の健康増進を目的として「地域の保育所等への情報提供や巡回支援等を実施」するような活動をするよう勧めています。当施設でもそのような活動の一環として、今月からこのようなパンフレットの作成を始めてみました。これを読まれる方は保育士さんや看護師さんということから、内容としては、感染症の話を中心として、保護者に対して提供するよりもよりやや高いレベルでの情報提供を考えています。

タイトルの「Twinkle」は、「輝き」とか「きらめき」という意味です。貝塚市をはじめ泉州地域の子どもたちがキラッと輝いて欲しいという願望を、病児保育室リトルスターから連想した言葉で命名しました。今後、月に1回、定期的な発行を予定しています。手探りでスタートでありますので、これをお手に取られた方からのお声をお聞かせていただければありがたく思います。よろしくお願い致します。



顕性感染と不顕性感染

病原体が体の中に入ってきたら、必ず病気を発症するのでしょうか。いいえ、そうではありません。明らかな症状が出たものを「顕性感染」といいます。一方、感染しても特有の症状が出ず、ただ病原体を保持して知らないうちに治ったり、知らないうちに他人に感染させたりするということがあります。これが「不顕性感染」です。「顕」の字は、顕微鏡とか、顕彰するというような言葉の中で使われていますね。「顕」という漢字には物事を明らかにするという意味があります。

感染した人間にとっては不顕性感染で終わることはありがたいことです。ただ、不顕性感染者が感染源となる場合もあり、周りの人間を感染から守るあるいは感染の広がりを防ぐということからするとやっかいです。言い換えれば、保育所児童や集団での感染対策としては顕性感染者だけへの対応だけでなく、不顕性感染者への対策も考える必要があるということです。

手足口病やヘルパンギーナといったいわゆる夏かぜ、また冬季を中心に流行しやすいノロウイルスやロタウイルスによる急性胃腸炎など、さらには流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）も不顕性感染が多い病気です。一旦、保育所で流行が始まったら、症状のある子どもだけでなく、症状のない子ども、さらには保育にあたる大人もひょっとしたら不顕性感染者かもしれません。感染対策としては、そういうことを頭に入れての対応が必要です。言い換えれば、一旦施設内で流行が始まれば、①感染している子どもについては感染リスクが下がってくれば無駄に長い期間お休みを強いるものではないこと、②感染していない様に見える子どもや保育者も感染源となる可能性があるということになりますので、マスク、うがいや手洗いなどの「標準予防策」の励行、再徹底が必要です。

「標準予防策」については、できれば次号でも少し詳しく取り上げたいと思います。